

7-10

演題	私たちに興味をもって！
副題	～特養から地域にひろげる認知症の輪～

地域交流
社会貢献

法人名	社会福祉法人 相模福祉村
施設名	特別養護老人ホーム 縁JOY

発表者名 (職種)	小澤 亜希子 介護支援専門員
共同発表者	竹下 進也
共同発表者	仲 謙佑
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	相模原市中央区田名 7691-1
TEL	042-764-1110
FAX	042-764-5505
メールアドレス	enjoy@fukushimura.or.jp
URL	

今回の発表施設 またはサービスの 概要	平成 20 年 5 月開所。本入所 90 名、ショートステイ 10 名のユニット型施設。 法人理念「相模福祉村をわが街（まち）の文化に！」をもとに、相模原の地域に根差したサービスの提供を心掛けています。
---------------------------	--

研究の目的、PR ポイント

縁 JOY は開所直後より近隣小学校と交流を始め、今年で 15 年ほどが経ちました。認知症サポーター養成講座、高齢者体験など高齢者への理解を深める講座と施設を訪問しての交流会を年間を通して行っています。講座では認知症を学び、高齢者の身体の大変さ不便さを実際に体験し理解してもらっています。すると認知症高齢者とうどう交流してよいか戸惑っていた子供たちが学習で理解を深めた後には「不自由な相手を助けるためにはどう自分が変わればいいのか？」と考えられるようになり、そして言葉掛けや行動が変わります。この体験を通し、子供たちと地域の高齢者との距離が近くなり、助け合う気持ちがうまれるよう働きかけています。

取り組んだ課題

核家族が進む中、現代の子供たちは祖父母との関わりが気薄で、高齢者とうどう関わっていいのかが分からない状態です。また認知症という病気についても理解しにくく、地域にそういった方が多くいる状況であっても、関わる機会が少ないと感じています。地域課題解消のためには、福祉に関わる私たちがどのような形で人を育て、共生社会を作っていくことが必要だと考え取り組んでいます。

具体的な取り組み

- ・ 毎年、小学 4 年生 1 学年(100 名前後)へ、年間 5 回ほど講座・交流会を実施しています。(うち 2 回は小学校へ訪問しての授業)。学校では総合学習の時間として位置付けられています。
- ・ 交流会では 10 グループに分かれた子供たちが、それぞれのユニットに行きます。事前に考えてきたレクリエーションを子供達主導で行ってもらいます。
- ・ 認知症養成講座では、キャラバンメイト(講師)が、小学生向けに分かりやすく、認知症について教えています。交流前に認知症についての理解をしてもらい施設に来たときに慌てず交流ができるようにしています。

- ・ 高齢者体験として、ゴーグルや重りをつけての、身体の不自由さの体験、車椅子と車椅子リフト車体験を行っています。不便でも、不便さを克服できる便利な道具もあることも同時に教えています。

活動の成果と評価

子供たちのお年寄りに対する関わり方の変化が見え始めました。ただ大変そう、かわいそうという気持ちではなく、自分たちにできる具体的な関わりを考え始める子が増えました。また副次的な効果として、施設への入所を考えたときに子供が縁 JOY を勧めた、就職を考えるにあたって子供が勧めたから面接に来た、など入所や就職のきっかけとなることもありました。

今後の課題

将来なりたい職業の選択肢として、福祉の仕事の魅力がまだ乏しいと感じます。憧れる職業として、多くの子供たちが興味を持ってくれるようになればいいと思っています。